

資料 6-2



令和6年4月撮影

【本願寺本堂】

指定等種別：国指定重要文化財
員数：1棟
指定日：M37(1904).2.18
年代：鎌倉時代
所有者：宗教法人 本願寺
住所：京丹後市久美浜町1番地

【事業内容】

事業名：国宝重要文化財等保存・活用事業
事業期間：R6.2～R6.12末(予定)
修理内容：屋根葺替、耐震補強ほか
設計監理：京都府教育庁指導部文化財保護課
施工者：岸田工業株式会社、株式会社坂根工務店

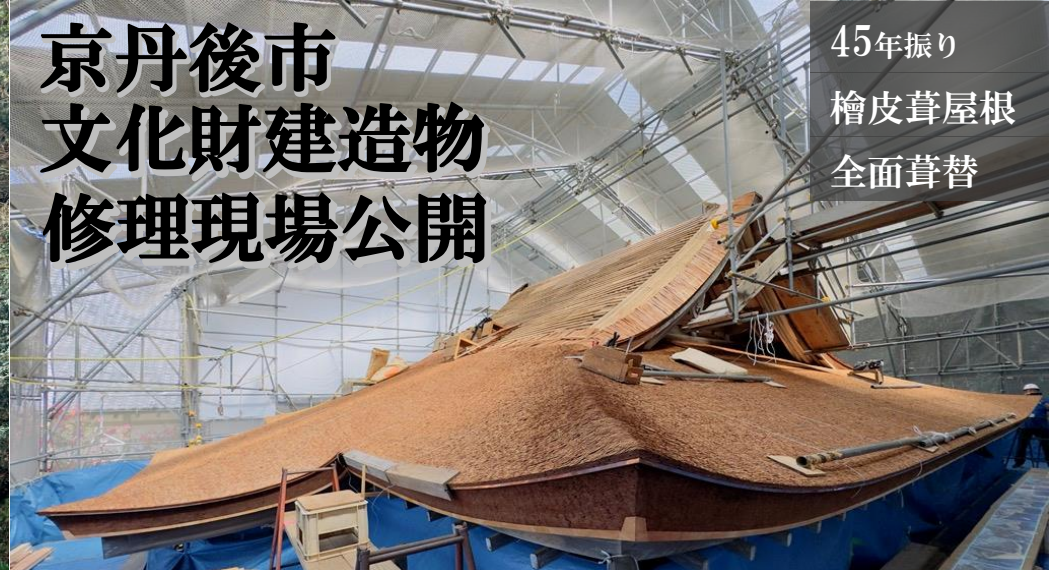
【京丹後市デジタルミュージアムより】

本願寺は縁起によると、天平2年(730年)、行基がこの地を訪れ、一本の大樹に群集していた嶋(しぎ)がたちまち仏に姿をかえ西の空へ飛び去るという瑞相があり、この大樹で阿弥陀如来の像を刻み、一字を建立してこれを安置したのに始まるという。その後、恵心僧都(えしんそうず)が復興したと伝える。

この本堂は、丹後で最古の木造建築であると同時に、唯一の中世仏堂遺構として貴重なもので、鎌倉後期のものと見られている。桁行(けたゆき)5間、梁間(はりま)5間、単層入母屋造(たんそういりもやづくり)で、檜皮葺(ひわだぶき)の屋根の勾配はゆるやかである。内陣中央には禅宗様の須弥壇(しゅみだん)と厨子(ずし)が置かれ、本尊を祀っている。

京丹後市 文化財建造物 修理現場公開

45年振り
檜皮葺屋根
全面葺替



本市最古の木造建築

国指定重要文化財 本願寺本堂 (京丹後市久美浜町十楽)

久美浜町にある本願寺本堂は本市最古の木造建造物で、国の重要文化財に指定されています。この本堂を後世に引き継ぐために、令和5年度から2年間の計画で檜皮葺(ひわだぶき)屋根の全面葺替を実施しています。

この度、多くの方に文化財の重要性や保存修理の必要性を伝え、地域の歴史文化を継承するために、普段は見る事ができない修理現場を公開します。



檜皮葺の表層

【主催】京丹後市教育委員会 【担当】文化財保存活用課
【協力】京都府教育庁指導部文化財保護課・宗教法人本願寺・岸田工業株式会社

◆本願寺本堂屋根修繕事業は国・京丹後市から事業費の一部補助を受けて実施しています。

工事内容

令和5年度から2年間の計画で檜皮葺(ひわだぶき)屋根の全面葺替を実施しています。令和6年度秋に完成する予定です。

檜皮葺(ひわだぶき)とは

日本に古くから伝わる檜(ひのき)の樹皮(檜皮)を用いた屋根葺の技法です。檜から皮を剥ぎ、大きさを整えたのち、水に漬けて濡らします。その後等間隔に少しずつずらして並べ、竹釘を用いて檜皮を留めます。

重厚かつ柔らかな曲線を作り出せる檜皮葺は、令和2年にユネスコ無形文化遺産に登録された「伝統建築工匠の技:木造建造物を受け継ぐための伝統技術」を構成する17分野の技術の一つです。

【今回の葺替で使用する檜皮】

檜皮情報

- 今回の葺替で使う檜皮は？
 - ・枚数: 屋根全体で約4万2千~5万枚
 - ・重さ: 約5.2トン以上
- これまで屋根に葺かれていた檜皮の廃棄量は？
 - ・30キロの米袋約1千5百袋



【新しい檜皮を葺く前の屋根】



小屋組みの状況

今回の工事で檜皮葺屋根の内側(小屋組み)を確認したところ、明治44年に実施された大修理工事の際の木材を確認できました。当時、京都府技師で現場監督をしていた亀岡末吉(かめおか すえきち)*の名前も書かれていました。

*亀岡末吉は、明治時代に文化財修理を牽引した大修理技術者です。



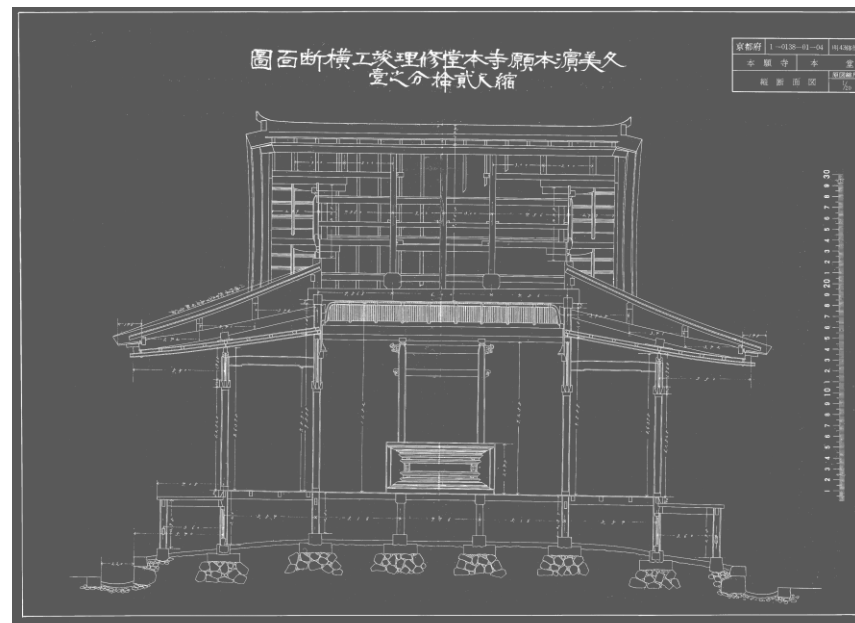
提供: 京都府教育庁指導部文化財保護課



「明治四十四年四月野垂木及野木舞全部新添」
野垂木と野木舞は全部取り替えた

提供: 京都府教育庁指導部文化財保護課

明治44年修理後の図面(一部加工)



提供: 京都府教育庁指導部文化財保護課

「久美濱本願寺本堂修理竣工横断面圖」